



みどりの風



令和6年2月26日発行

「後続く旅人のために・・・」

校長 安藤 晋哉

令和5年度も残すところあと一か月となりました。3年生は来週公立高校の一般入試があり、その翌週はいよいよ卒業式を迎えることとなります。もうすでに進路先を決めている生徒もいますし、これから公立入試本番に向かって最後の頑張りを見せている人もいます。3年生全員が4月からの新たな生活に期待と希望に溢れる状況になるよう全職員でサポートしていきたいと思います。

さて、1年生は中学校に入学して一年間が過ぎようとしています。ものすごく早く感じた人もあれば、とても長く感じている人もいるかもしれません。4月からは重富中学校の中心的な役割を担う学年となります。頑張っで欲しいです。2年生にとっては、いよいよ最高学年となり、名実ともに学校を背負うこととなります。生徒会活動や部活動をはじめとして学校行事などで一人ひとりが光輝きながら活躍してくれることを期待します。

ところで、この時期によく使われる言葉に「有終の美」という言葉があります。また、古くから言い伝えられている「立つ鳥あとを濁さず」とか「終わりよければすべてよし」という格言があります。これまでやってきたことの集大成として最後をしっかりと締めくくることが大切さや先を歩む者・先輩としての心構えなどを示した教訓であると考えます。このようなことは我々日本に限るものではありません。遊牧民族であるモンゴル民族の諺に「後続く旅人のために泉を清く保て」というものがあるそうです。遊牧の民にとって泉（水）は命を保つために重要なものです。自分たちだけではなく、後の人たちのことを考えることの大切さを教えています。私たちも次に使う人・次にそこで生活する人が気持ちよく過ごせるように最後をしっかりと締めくくる生活に努めていきましょう。

【トピック】 **本県の新たな教育の動き(2つ)** 南日本新聞(左:2/16朝刊, 右:2/13朝刊抜粋)

教育改革が進展します。現在の2年生・1年生・新1年生に関係するものです。

詳しくは来年度, PTA総会でも説明します。

県 24 年度当初予算案

教育

- 生徒指導対策総合推進事業＝2億523万円 児童生徒の悩みに対応するため、スクールカウンセラーなど専門家の学校への派遣回数を増やす。原則1校につき小学校が年6回、重点校を除く中学校と義務教育学校が12回、高校が年20回。
- 新時代の「確かな学力」育成推進事業＝2786万円 小学5年と中学1、2年を対象に実施している「鹿児島学習定着度調査」の全教科で紙を廃止。1人1台配備されているデジタル端末を使った出題・解答方式に切り替える。問題用紙発送などのコストや労力が減るだけでなく、より詳細にデータを分析して指導に生かすことができる。
- 補修中高一貫教育校調査・広報事業＝63万円 2026年度からの共学化と通学生受け入れに向けて、他県の先行事例を調査する。学習塾など教育機関に対する周知広報も行う。

公立高に自己推薦制

25年度入試 県教委導入 受検者増を期待

県教委は25年度公立高校入試をめぐっては、自己推薦制を導入し、受検者数を増やしていく方針を示している。従来の公立高校入試は、入試当日に学校で実施される。従来の公立高校入試は、入試当日に学校で実施される。従来の公立高校入試は、入試当日に学校で実施される。

従来の公立高校入試は、入試当日に学校で実施される。従来の公立高校入試は、入試当日に学校で実施される。従来の公立高校入試は、入試当日に学校で実施される。